

平成29年度 年間授業計画

都立第一商業高等学校

教科・科目	地歴・日本史A	単位数	2	対象学年・組	2学年全クラス
教科書 使用教材	清水書院 高等学校日本史A最新版	教科担任		伊藤 和明	
	浜島書店 新詳日本史				

1. 目標 近代日本の母体ともいえる江戸時代の幕藩体制、「鎖国」体制を踏まえ明治維新以後の日本がどのような経緯で変化していったかを理解する。また近隣アジア諸国との関係の推移についても考えさせ、民主主義的な社会の形成と平和で友好的な国際関係の形成をめざす姿勢を身につけさせる。

2. 学習内容と学習上の留意点

学期		指導内容	具体的な指導目標	学習上の留意点	予定時数
1 学期	前半	江戸時代初期～ 中期の概観	約260年も続く大きな戦乱のない平和な時代であった江戸時代における、幕藩体制・「鎖国」政策などの特徴・特筆すべき点などを理解させる	細かい知識ではなく、江戸時代がどのような時代であったかという広い視野をもたせて学習させる。	8
	後半	国際関係の変化と 幕藩体制の動揺	ここまでで学習してきた長く続いた江戸幕府がなぜ崩壊してしまったのかを、世界史とのかかわりの中で理解させる	江戸幕府の崩壊に関して今までの生徒の知識と関連付け、また世界とのかかわりも意識させることで、歴史のつながりを感じさせる。	16
				※基本的知識の習得を主眼に置くとともに、歴史のつながり、因果関係という観点から歴史に対する興味・関心を喚起する。	
2 学期	前半	明治維新と近代国家の形成	近代国家の形成過程を世界史とのかかわり・日本特有の社会構造などと関連付けて理解させる	細かい知識にとらわれず、歴史の流れを把握できるように注意する。	12
	後半	立憲政体の成立と 国際的地位の向上	条約改正や日清・日露戦争を経ることで起こった対外関係などの変化を、政党推移とともに理解させる	1つ1つの事象をただ追ってだけでなく、その物事の始まりと終わりの理由を重点的に意識する。	16
				※基本的知識の習得を主眼に置くとともに、自ら歴史を学ぶ意欲を持たせる。	
3 学期		第1次世界大戦と日本	護憲運動・大正デモクラシー・第一次世界大戦など近代日本の大きな課題の特質を理解させる。	近代日本の中での大きな特色をつかませ、護憲運動や大正デモクラシーの限界の理由などを考察させる。 ※基本的事項の習得に力を入れながら、簡単な歴史の説明ができる表現力を身につけさせる。	18

配当時間は一応の目安であり若干の増減はある。

3. 授業を受ける上での注意

※生徒が学習する上での学習方法について、具体的に箇条書きで記述する。

- ・教科書をよく読み、内容を理解する。
- ・グループワークにおいて積極的に発言をしている。
- ・発問に対して自らの考えを深め、他生徒と共有している。

4. 評価の観点・方法

※評価の観点と方法についてわかりやすく具体的に記述する。

定期考査・ノート点検・出欠状況・授業の姿勢・課題等の提出によって、評価する。